

①

子どものために・家族のために・愛する人のために・自分のために

信頼される教職員を目指そう (玉野市立鋒立小学校の校内ルール)

※校内ルールは、ホームページやPTA総会、学校便り、学年便り、学級懇談等で周知する。

5つの心構え

- 何でも相談し、共に助け合える職場環境づくりに努める。
- 法令を遵守し、教育公務員としての自覚をもち、服務規律の徹底に努める。
- 自分の言動に責任をもち、資質・能力の向上に努める。
- 子どもと共に学び、共に成長し、手本となる行動に努める。
- 地域の特色を知り、連携・交流をとおして理解を深める。

リスクマネジメント（未然防止）

【問題の予兆・兆候の把握】

- 児童・保護者・地域からの情報（虐待など）に耳を傾ける。
- 報告・連絡・相談・確認の徹底。孤立させない。
- 風通しのよい職員室の雰囲気づくり。
- 全職員に「校内ルール」の配付や研修を行い、校内ルールの周知と共通理解を図る。

【相談体制の整備・保護者や地域との連携】

- 保護者との信頼関係づくりに努める。
- 保護者や児童との教育相談の充実を図る。
- 生徒指導・教育相談・教頭が中心となり、児童や保護者が相談を行うための相談窓口を設ける。
- 生徒指導に係る事案については、複数の教職員で組織的に対応する。（ケース会等）
- 外部機関との連携を図る。

【体罰・暴言】

- 児童の人権を尊重し、大切にできる意識をもつ。
- カッとなったら深呼吸。アンガーマネジメント。
- 児童への言葉遣いに気をつける。
- 同僚の体罰・暴言に気づいたらすぐに制止し、管理職に報告する。

【わいせつ・セクハラ】

- 児童や保護者等とスマホ、メール、SNSでやり取りをしない。連絡が必要なときは、学校の電話を使用する。

クライシスマネジメント（発生後）

【事実の確認・初期対応】

- 複数で事実確認・共通確認する。
- 校長のリーダーシップのもと、迅速に誠意をもって対応する。
- 事実を確認・記録し、整理する。

【児童の心のケア】

- 登校後の児童の表情等を観察する。
- スクールカウンセラー等と連携する。
- 全児童との面談を実施する。

【保護者会の開催・保護者への説明】

- 事実を真摯に伝える。
- 誠意をもって対応する。
- 再発防止対策を示す。

【マスコミへの対応】

- 情報の出入り口は教頭（校長）のみとする。
(窓口の一体化)
- 地域や校内の巡回指導で子どもを見守る。
- 教育委員会等、外部と連携する。

- 許可なく校内でスマートフォンを持ち歩かない。
- 児童への個別面談や個別指導は、校内または保護者在宅中の児童宅で行う。一対一の状況をつくらない。
- 児童宅で行う際は必ず日時を連絡し、保護者の許可及び事前に管理職の許可を得る。
- やむを得ず児童を自家用車で送る場合は、事前に管理職の許可及び保護者の承諾を得る。
- 教職員は、自らの心身の健康を保つ。また、同僚間で助け合い、一人で悩みを抱え込まない。
- 職員同士で互いに声をかけ合い、防止に努める。
- 玉野市教育委員会にも、相談窓口あり。

【交通安全・飲酒運転・酒気帯び運転】

- 時間に余裕をもって出勤する。
- 事故に巻き込まれた場合は、法令に従い、人命救護を最優先に行動する。過失の有無にかかわらず警察を呼び、検証を受けるとともに、速やかに管理職に報告する。
- 飲酒をした場合、絶対に車両（自転車も）を運転しない。また、飲酒をした者に運転させない。
※飲酒時間や量によっては、翌日までアルコールが体内に残る可能性あり。

【安全管理】

- 安全点検は複数の目で実施し、問題があれば、速やかに対応する。

【学校徴収金の適正管理】

- 現金を机の上や中に置かない。
- 集金後、すぐに支払う。（請求から2週間以内）
- 納品などの確認、請求書の受領、支払いに係る起案、決裁、通帳からの振込、引出しの一連の手順を明確にしておき、複数の職員がチェックする。
（←「学年・学級会計の取り扱いについて」）

【個人情報の保護と取り扱い】

- 個人情報を含む電子データは、自分のスマホやPC等に保存せず、学校のサーバーに保存する。
- やむを得ず校外に個人情報を持ち出す時は、校長に持ち出し許可を申請する。その際「個人情報持出簿」に必要事項を記入し、返却時には管理職の確認を受ける。
- 個人情報を持ったまま寄り道しない。
- 机上に個人情報に関する物や貴重品を置かない。
- 情報管理に関する研修を行う。
- 自分のパソコンのアップデートを確実に行う。

【職員の意識】

- 自分の家族に対しても話題にしてはならない情報があることを理解し、組織の一員としての危機管理意識を持続する。

【再発防止への取り組み】

- 関係職員、教育委員会、外部機関等で連携しながら原因究明と再発防止対策を検討し、再発防止に取り組む。

「鎖が一番弱い部分が切れる。

切れた部分が一番弱かったのだ。」



いくら「強い部分」があっても、チームとしての力を決めるのは「一番弱い部分」です。「一番弱い部分」は人かもしれませんし、システムかもしれません。「一番弱い部分」が強くなることで、チームの力が強くなります。皆で支え合い、チームの力を高めていきましょう。